



測定を利用しました。GRPを投入すれば逆算して読めます。米国のCIA(中央情報局)が1954年に自国民に対して作った、大衆をいかにミスリードすべきかというメディア戦略を参考にしたので。

どうすればブランド化できるかなんてどこにも書いてありません。あるのは実際にやった事がない人が書いたものです。失敗例に学ぶ方が遥かに役立ちます。同じ過ちをしないで済むからです。失敗例は隠すものではないのです。

### 対処療法

過疎の村は瘦せ細った自分の手。ならばリハビリです。痛くても一所懸命動かす事により、農家に血液が流れ栄養を落とす。交流戦略、3つ目の対処療法です。

人が減り農家が空いています。対策の失敗例を調べると共通点が浮かび上がりました。人が入ってもすぐに出て行く、或いは制度そのものが長続きしない市町村。共通点はなんと頭を下げていた事です。お金を出しリフォームし「是非入ってください」とお願いしていたのです。

ですから反対をやりました。書類審査に合格しないと見学すら来られないようにしたのです。見学者が帰った後も評価会を開き、最高点の方のみ後日、村の会館に呼びます。円座の中心で厳しき尋問に耐え抜き、ポリシーが揺るがなかった若い家族しか入れませんが、結果、その後は誰一人出て行っていません。過疎の集落に本当に必要だったのは、腫物に触るような「お客様」ではなく、共に水利の管理、農道の作業、共同作業、村祭をやってくれる「村の住民」だったのです。

### 烏帽子親農家制度

過疎、高齢化の村には賑やかさが無いという事で、お酒の飲む女子大生が泊まる事のできる制度を作りました。実費を頂き、東京農大と法政大学のお酒好きな女子大生2人を泊めました。まず農家の親父さんと一献交わして貰い、親父さんが台詞を言います。「今日からお前はうちの娘だ。」「烏帽子親農家制度」という名前を付けました。烏帽子親とは平安時代から伝わる日本の伝統文化で、かりそめであっても親親子なのです。

調子に乗っていたら石川県庁薬事衛生課より保健所の許認可が下りているか問い合

わせが来ました。「金額に関わらず、お金を取る以上は旅館業法、農家民宿になるので許認可が必要」との事ですが、やりませんでした。また電話です。「認可はおおりていません、申請してませんか」と伝えたら「食中毒を起こしたら誰が責任を取るのだ」と怒り出しました。

…来た、一番責任を取りたくない人達です。「県庁が取ってくれますか」と尋ね返した瞬間に電話を切られ、二度と来ないだろうと思っていたら2日後にまた電話で「泊めた2人の食べたレシピ、食材を2週間分だせ」と言うのです。覚えてる訳がありません。

「地方自治体は行政なのに、旅館業法や食品衛生法を遵守できない理由・頼末を書き出し、出頭して事情説明しろ」とも言われました。「出頭」という言葉は犯罪者に向けるべき言葉ですので、行きませんでした。その代わり、弁の立つ全国紙の記者を送ってあげたのです。

「平安、室町時代から伝わる古来伝統文化に、今日現在になって法律を適用する馬鹿な公務員達を」と思っています。「誰ですか」「県庁にいる〇〇という職員です」「どうするのですか」「全面戦争です」「羽咋市と石川県庁が全面戦争ですか！これはいいネタですね」…夕刻、石川県庁から「烏帽子親農家制度は不特定多数の人間を相手にした生業ではない為、旅館業法は適用されない」と電話がありました。非常に細い声で。旅館業法から外れば食品衛生法などが全て外れます。実は法律ギリギリだという事を自覚していました。まがりなりにも行政マンです。法律を知らない訳ではありません。ではなぜ危険を冒してまでそうしたのか。実は旅館業法、食品衛生法を通ずるとなると、4〜5百万円のお金が飛ぶのです。こんな山中の過疎の村に上・下水道など来ていません。その内情を口が裂けても言えなかつた訳です。



### オーナー制度と援農宿舎

リハビリ運動でやった事は、オーナー制

度です。日本人の近い存在を過小評価する特性を逆手に取り、地元や近所には告知せずAP通信、ロイター通信など外電に対してFAXを流し続けました。

初めて採用してくれたのが英国のガーディアンという新聞で、第1号のオーナーとして手を挙げて頂いたのは英国領事館員です。発表と同時に40名の募集に対して、百名以上の人が来てくれました。

平成11年5月、6月に入ってきた女子大生達が「携帯は繋がらないが農家のおじさんと心が繋がった」と烏帽子親制度を宣伝してくれました。すると法政大学国際文化部の堀上教授が調査に来られ、学部生を泊めたいと言います。「田舎に泊まる」という番組の真似で「泊まらたかったら交渉、失敗したら会館に泊まってください」となりました。

男子学生が来るとお婆ちゃん達が、女子大生が来ると爺様方が元気になります。ただし学生達が来てくれても実務としては、せいぜい力仕事程度しか役に立ちません。それなのに何故、未だに続けているのか。それは未熟な学生の受け入れをした農家の方が豊かになる、という事に気付いたからです。夏場と冬場の2シーズン受け入れを行っており、法政大学から飛び火して、今では6大学中心に様々な大学から来てくれています。

### 雛人形作りと農家カフェ

冬場、2〜3月まで学生達が居て、3月3日の雛人形作りを皆でやります。学生達が最初に出したアイデアですが初年度は力が入りすぎて、百m×40mという巨大な雛人形を作ってしまう大変苦勞しました。イベントのチラシには「お帰りの際は村のレストランをご利用ください」と入れました。携帯も繋がらず看板も無い「レストラン」ですが、岐阜県から移住した夫婦が創業日を当て込み大盛況でした。彼らの年収は1千万円を超えています。生産・加工・販売。一次産品は出しません。

また彼らのお陰で村に18年ぶりの子供が生まれました。夫婦が子育ての傍ら、懸命に店を切り盛りする事で何が起こったか。赤ちゃんがかぐすと、近所のお婆さんがおぶって連れ出してくれるのです。悪い事をすると怒られ良い事は褒められる。日本から消えつつあった教育力が、過疎の村に復活したのです。

### 国際ブランド化戦略

ブランド化は1つでも前例があればできるはずですが、できない理由を並べては何もできません。最初にマネージメント手段として選んだのが、米国防総省が3分の1出資しているメーカーの人工衛星を使った米の解析です。「とても不味い米」「とても不味い米」まで5段階分けし「とても不味い米」と「次に不味い米」は全部、農協に出すよう指導しました。

「普通の米」「美味しい米」「とても美味しい米」は高値で自分達が売りますよ」と言うので翌日、農協の援農部長がすっ飛んで来て、机を叩いて怒られました。この米の衛星解析実験は、始めてみると仕事として成立するようになりました。



すると今度は「コスト削減による成功」と新聞が社説に書いてくれました。クライアントは北は山形、南は熊本まで居らっしゃいます。測定の度に役所にお金が入ります。次第にブランド化していきました。

どうしたら消費者、大衆は「ブランド」だと認識してくれるのでしょうか。分かったのは「人は自分以外の人が飲み、食べている物を欲しがら」という事です。相手の影響力が強ければ強い程、同じ物を食べてみたいと感じるので、そこで影響力の強い方を3名選び、定期的に召し上がって頂くよう考えました。

まず天皇、皇后両陛下。宮内庁に問い合わせ、石川県は旧加賀藩、前田利祐公第十八代当主という方に直談判しました。一度はお受けくださったのですが、後に宮内庁よりお断りされてしまいました。今度はローマ教皇様に質問形式でお願いの手紙を書きました。マタイ福音書の1節まで引用し、思いを込めたのですが返事はありません。

3人目、米の国と書く米国大統領に食べさせない訳にはいかないという事でお米を送りましたが、3週間後に受け取り拒否の返品です。腹が立ち電話を掛けた所、交渉の最中にバチカン大使館(ローマ法王庁大

使館)から呼び出しの電話がありました。向うと大使と代理大使が待っておられ「バチカンは800人しかいない世界で一番小さな国です。小さな村から小さな国への架け橋を、私と大使がやりましょう」と言ってくれたのです。ぎりぎり10月の事で、それまで全く売れなかった新米が、この奉納をきっかけに、1か月で700倍も売れました。

有楽町の外国人記者クラブにて、16か国の外国人記者に向け記者会見も開きました。「酒がワインより劣るのですか」という皮肉な看板を付けました。

試験会で態度が変わり「まるでワインだ。…ワインの酵母菌を使い、米を発酵させたのですから当たり前です。米のワイン」しかできようがありません。それを記者が「ワインのような高級な日本酒ができた」と16か国に配信しJALの国際線のエグゼクティブクラスの指定酒になりました。



### 農家だけで作った株式会社

2年後、約束通り会社を作って頂くようお願いしましたが叶わず、45回も会合を開きました。「赤字になったらどうする」と言われたので「それほど心配なら何回も失敗してください」と言ったら火のついた煙草の灰皿を投げ付けられました。結果作事ができました。プレハブの直売所に1億円以上の売上です。

ここまでは2年。嬉しかったのはオープンの日、2年前大喧嘩した農協組合長が代表の挨拶に立ってくださり「農協がやらなければいけない事を役所がやって見せてくれた」と数百人を前にお話くださった事です。可笑しかったのは、真っ先に手を挙げて反対した農家が「私達が作った会社です」と案内していた事です。

### 腐らずに枯れる野菜・穀類

実は根本的な問題に取り組んでおりまして、農薬、肥料、除草剤などの外部資材を使わない野菜・米作りを行っています。この農法を考案した「奇跡のリンゴ」の木村秋則さんを農協が招き、羽咋市内や全国の

農家を集め指導会を行っています。このような事をしてくれる農協は、日本中どこだけです。

JAS農法に反対している訳ではありません。否定ではなく、選択肢を一つ増やし、本当の意味で環境を保全するやり方がある事を示しているのです。

しかし、JAS有機農法の野菜は最初に腐ります。間違った物が入ると腐る。この姿を見た時に私はいつも、僧侶の姿が頭の中で重なってしまいます。昔の僧侶は「枯れ」ました。新潟や東北の即身仏のおられるお寺を見てください。最近私を含め「腐る」僧侶が多い。余計な物が入っている、人間の心も同じです。間違えた思想を叩き込む心が腐ります。ここが重要です。法華経を入れてみてください。腐りません。枯れていくだけです。

農薬、肥料、除草剤、化学資材を使わない農作物には殆ど虫が来ません。山などの天然の栗にも殆ど虫がいません。農薬などを使った農作物には集まって来ますが、害虫と呼ばれるその虫達はある意味で益虫です。悪い物が入っている食物を、たかる事で私達に教えてくれているのです。

木村さんの農法で作ったトマトは比重が1より重く、水に沈みます。そして放っておくと、枯れ果てて腐ります。私のエッセル塔にある三ツ星レストラン「ル・ジュール・ヴェルヌ」でも採用されました。「私達のお米に水を入れ放っておくと、発酵してどろろくができます。トマトも放っておけば腐らせずに枯れます。あなたの方のトマトは腐りませんか」というネガティブキャンペーンが効を奏したのです。



### 仏教の教えを応用すると

私の行動理念はすべて仏教から来ています。私が偉いのではなく仏教が偉いのです。これを生活、ビジネス、生活規範に応用するだけで、どんなにもない事ができます。本日はそれを皆さんに知って頂きたくてお話させて頂きました。最後まで清聴ありがとうございました。



平成26年度

# 立正大学同窓会定期総会

## 6月28日(土)

今年度の大学同窓会定期総会を6月28日(土)に熊谷キャンパスゲートプラザ1階1101教室にて開催いたしました。

●当日は本学の客員教授である高野誠鮮氏による記念講演「ローマ法王に米を食べさせた男―過疎の村から世界のマーケットへ―」に始まり、総会終了後には大学同窓会・短期大学部・保育専門学校同窓会合同の懇親会が学生食堂「ステラ」にて行われました。



## 立正大学同窓会

会長 ●野坂法雄  
創立 ●昭和35年(1960)  
会員数 ●約13万人  
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16  
電話 ●03(3493)6673  
<http://alumni.ritsho.jp/>

### 平成26年度 立正大学同窓会の今年の活動



立正大学同窓会副会長 西岡 勇治  
今年第2回となる校友会主催の「ホームカミングデーin橘花祭」に同窓会として今年も協賛参加し、現役学生との交流・懇親を図っていく事が総会で確認されました。

それは同窓生同士の懇親や現役学生との交流の場として品川キャンパス内にテントを張り、各県・各学部のブースを設けて、交流の場を用意するものです。

そして、参加にあたっては、各支部自慢の逸品を持ち寄っていただき、それを販売していただく予定です。その逸品の販売をきっかけにしながら、同窓生や現役学生に県支部の活動紹介や地元自慢をしていただく予定です。尚、売上金の一部は、学生のための奨学金に寄付させていただきます。

各支部同士の横の連携を深める中から、より活発な支部活動の展開に結び付けていただきたいと思います。更に、現役学生にも、自らの出身県に先輩同窓生がたくさんいることを知っていただき、将来の就職活動にもつながる人間関係を構築する機会を創る場ともしたいと思えます。

現役学生と同窓生を含めた「オール立正」としてのまとまりある活動を将来に向けて展開していく第一歩としていと思っています。

目指すところは「立正の学生になってよかった。立正の関係者でよかった。立正で学んでよかった。立正大学品川キャンパスが品川にあってよかった。立正大学が日本にあってよかった」とそれぞれの立場で思っていただけ、そういう大学になってほしい。そういう大学の活動の支援を同窓会と

して展開していきたいのです。同窓会として大学や学生を支援する新しい型の第一歩です。ぜひ支部として参加いただけますよう、ご案内申し上げます。

尚、逸品の提供はできるが、販売用の人の手配までは出来ないという支部の方は、ぜひ逸品をお送りください。東京近県の同窓生仲間に協力いただいて、県支部の逸品の販売と合わせて支部の紹介もいたしたいと思えます。その際は、売上金は、現役学生のための奨学金に全額寄付をさせていただきます。詳しい開催・参加要領は、立正大学校友会にお問い合わせください。

### 平成26年度 大学定期総会



古河理事長挨拶



二ノ宮名誉会長挨拶



野坂大学同窓会長挨拶



議事



会旗伝達



10年支部表彰(岐阜支部)



山崎学長挨拶



懇親会風景



清水社会福祉学部長による乾杯の音頭



高橋副学長挨拶



### 平成26年度 立正大学同窓会・短期大学部・保育専門学校同窓会合同懇親会



集合写真



懇親会風景



# 立正大学短期大学部・保育専門学校同窓会

会長 ● 砂川米子  
会員数 ● 12,000人  
〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700  
立正大学熊谷キャンパス



立正大学短期大学部・保育専門学校  
同窓会会長 砂川米子  
立正大学短期大学部・保育専門学校同窓会

平成26年度 立正大学短期大学部・保育専門学校同窓会総会・懇親会開催報告

## 短大・保専故事来歴

【第四話】

立正大学短期大学部・保育専門学校  
同窓会監事 社会福祉学部教授 清水海隆  
第四話は、短期大学部と保育専門学校の歴代の学長先生・校長先生のお話です。ご自分の母校の学長先生や校長先生については、在学中の先生しか知らないのが一般的な卒業生ではないでしょうか。

立正短期大学部は50年の歴史を有する学校です。以下にお名前をあげたように、短大は大崎時代・熊谷時代をあわせて12名の学長先生が、保専には4名の校長先生が就任されました。

- ① 飯沼龍遠 (昭和25年就任)
- ② 望月恒匡学長事務取扱 (昭和27年就任)
- ③ 石橋湛山 (昭和27年就任)
- ④ 坂本日深 (昭和43年就任)
- ⑤ 石川在静 (昭和46年就任)
- ⑥ 菅谷正貫 (昭和48年就任)
- ⑦ 中村一夫 (昭和50年就任)
- ⑧ 塚原博 (昭和51年就任)
- ⑨ 田賀龍彦 (昭和52年就任)
- ⑩ 杉原由機 (昭和62年就任)

生の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび平成26年6月28日(土)熊谷キャンパスに於いて、立正大学短期大学部・保育専門学校同窓会定期総会・懇親会を開催いたしました。皆様のご協力により無事終了することができました。総会の議事では①平成25年度事業報告・決算報告、②平成26年度役員承認、③平成26年度事業計画・予算(案)が提案され、慎重な審議を経てすべて原案通り承認されました。

引き続き総会の結びとして同窓会広報委員長より立正大学の現状報告がなされました。総会終了後に、立正大学同窓会と合同で、教職員の方を囲んでの懇親会を、熊谷キャンパス内、ステラにて開催いたしました。

同窓会は、今後も同窓会活動を充実するよう進めてまいります。是非、会員の皆様の積極的なご参加とご支援ご協力をこころ

- ⑩ 寺田保正 (平成2年就任)
- ⑪ 古西信夫 (平成8年就任)
- ⑫ 小林榮吾 (平成9年就任)

### 【保専学長】

- ① 坂本日深 (昭和44年就任)
- ② 竹田智道 (昭和46年就任)
- ③ 伊藤源一郎 (昭和52年就任)
- ④ 田賀龍彦 (昭和54年就任)

歴代大学長の中で最も著名な方は、昭和27年12月より同43年3月まで大学長を務められた石橋湛山先生です。石橋先生が昭和31年に内閣総理大臣に就任されたことは周知の通りです。

熊谷時代の学長の中では、田賀龍彦先生が注目されます。田賀先生は昭和52年12月に、学園常務理事として短大に就任され、その後昭和54年保専校長を兼務し、実に9年余にわたり短大を兼務されました。学長退任のち、平成6年には立正大学学園の理事にも就任されています。

さて、田賀先生の前後の時代を「50年史」から見ると、昭和40年代には学園の経営の立て直しが急務の課題となり、短大も昭和50年に一時的に経営権を他者に譲渡したり

より御願います。ご致しましてご挨拶を致します。



しています(中村短大時代)。その後、昭和51年7月に学園常務理事に就任した田賀先生は、熊谷担当常務として熊谷キャンパスの諸課題の対応に取り組み、翌年には短大を兼務し、いわば学園的な立場から短大・保専の立て直し・活性化が推進されていったのです。その成果はすでに前話までに記したように、昭和58年の短大・保専の統合ならびに短大改組による新生・短期大学の発足、熊谷キャンパスの諸施設の拡充整備など、多くの改革へと結果としていったのです。

また、教育的には「紀要」の年2回発行、公開講座の展開、ゼミナール・特別講座の設置、さらにはオリエンテーション・キャンパスやテールマナー講習会の開催、新高輪プリンスホテル「飛天の間」での卒業式の挙行等々、その後の短大の基本が、この時期に作られていったのです。

このような学内的努力は、外的要因にも後押しされました。この時期18歳人口は、それまでの減少傾向に終止符を打ち増加傾向へと転じていったのです。本学もこれに応じるため昭和61年には臨時定員増を実施しています。このような外部状況に助けられ、本学は田賀学長の時期に地域の主要短大の一つにあげられるようになったのです。

事業	概要
同窓会運営	(1) 役員会 (2) 会計監査 (3) 同窓会個人情報管理 (4) 会員(若い世代)に対する同窓会への参加推進 (5) 立正大学短期大学部・保育専門学校に関する写真の収集・データ化・管理 (6) 研修会(身延山) 10月18日(土)・19日(日)
定期総会	(1) 立正大学短期大学部・保育専門学校同窓会卒業生の集い 第4回定期総会 平成26年6月28日(土) 熊谷キャンパス (2) 懇親会
大学・学園への支援協力	(1) 大学祭(星霜祭)への参加、協力、助成
学生助成	(1) 奨学金助成
校友会参加協力	(1) 校友会委員会への参加
広報活動	(1) 校友会報に立正大学短期大学部・保育専門学校同窓会について掲載依頼 (2) 同窓会ホームページ更新作業 (3) 同窓会会報「ひまわり」作成と発送
会員情報管理	(1) 立正大学短期大学部・保育専門学校卒業生関係住所データ更新 (2) 校友会からのデータ提供・管理

科目	当初予算	決算額	差異	摘要
校友会構成団体助成費	1,200,000	0	1,200,000	
短大・保専同窓会引当金(繰越金)	4,099,982	0	4,099,982	
雑収入(定期・普通預金利息)	893	0	893	定期預金利息・普通預金利息
合計	5,300,875	0	5,300,875	

科目	当初予算	決算額	差異	摘要
定期総会	500,000	0	500,000	総会・懇親会・講演料・講演準備等
大学祭協力・助成	100,000	0	100,000	広告費用他
研修会	1,250,000	0	1,250,000	外部講師講演料・会員相互の研鑽他
学生助成	100,000	0	100,000	奨学金他
会議会合費	250,000	0	250,000	役員会開催
旅費交通費	400,000	0	400,000	役員旅費・校友会開催全国総会及び校友会委員会への参加等
人件費	0	0	0	
雑給	100,000	0	100,000	
通信運搬費	200,000	0	200,000	同窓会会員への郵送、全国総会参加手数料等、会員(若い世代)に対する同窓会への参加促進
消耗品費	100,000	0	100,000	文具・備品購入・データ保存用ハードディスク購入
印刷製本費	300,000	0	300,000	案内作成印刷製本等
図書資料費	0	0	0	
諸会費	0	0	0	
手数料・報酬	10,000	0	10,000	残高証明書作成手数料
賃借料	0	0	0	
事務委託費	50,000	0	50,000	立正大学短期大学部・保育専門学校同窓会事務局運営費
修繕費	0	0	0	
雑費	50,000	0	50,000	慶弔見舞金等
本部周年事業・定期総会積立	0	0	0	
予備費	500,000	0	500,000	
積立金	0	0	0	
支出合計	3,910,000	0	3,910,000	
繰越金	1,390,875	0	1,390,875	
総合計	5,300,875	0	5,300,875	

科目	平成26年3月31日現在金額
現金	3,903
普通預金	1,441,724
未払金	3,179,355
定期預金	525,000
合計	4,099,982

事業	活動概要
同窓会運営	(1) 役員会 (2) 会計監査 (3) 同窓会の個人情報管理 (4) 会員(若い世代)に対する同窓会への参加推進 (5) 立正大学短期大学部・保育専門学校に関する写真の収集・データ化・管理 (6) 新役員選出 (7) 研修会 (8) 同窓会旗の作成 (9) 同窓会記念碑補修
卒業生の集い 定期総会	(1) 立正大学短期大学部・保育専門学校同窓会定期総会開催 平成25年6月23日(日) 熊谷キャンパス (2) 特別記念講演 (3) 合同懇親会
大学・学園への支援協力	(1) 大学祭(星霜祭)への参加、協力、助成
学生助成	(1) 大学祭(星霜祭)への参加、協力、助成
校友会参加協力	(1) 校友会委員会への参加
広報活動	(1) 校友会報に立正大学短期大学部・保育専門学校同窓会について掲載依頼 (2) 同窓会会報「ひまわり」作成と発送 (3) 平成25年度立正大学短期大学部・保育専門学校同窓会定期総会案内ハガキ作成
校友会会員情報データと 共同利用	(1) 立正大学短期大学部・保育専門学校卒業生関係住所データ更新

科目	当初予算	補正予算	決算額	差異	摘要
校友会構成団体助成費	1,200,000	1,200,000	1,200,000	0	
短大・保専同窓会引当金(繰越金)	4,162,611	4,162,611	4,162,611	0	
研修会費・懇親会費等	0	120,000	120,000	0	研修会費・懇親会費(負担金)
雑収入(利息)	945	893	893	0	預金利息(普通・定期)
総会表費	0	10,000	10,000	0	校友会より(表費)
合計	5,363,556	5,493,504	5,493,504	0	

科目	当初予算	補正予算	決算額	差異	摘要
定期総会	500,000	125,470	125,470	0	総会・懇親会・講演料・講演準備等
大学祭協力・助成	100,000	40,000	40,000	0	広告費用他
研修会	450,000	131,781	131,781	0	会員相互の研鑽他・外部講師講演料
学生助成	100,000	0	0	0	奨学金他
会議会合費	250,000	150,000	124,781	25,219	役員会開催
旅費交通費	400,000	260,000	260,000	0	役員旅費・校友会委員会への参加等
人件費	0	0	0	0	
雑給	100,000	0	0	0	
通信運搬費	1,000,000	20,000	18,910	1,090	会員(若い世代)に対する同窓会への参加促進
消耗品費	100,000	100,000	96,180	3,820	同窓会旗作成
印刷製本費	300,000	10,000	0	10,000	
図書資料費	0	0	0	0	
諸会費	0	0	0	0	
手数料・報酬	10,000	10,000	1,400	8,600	残高証明手数料
賃借料	0	0	0	0	
事務委託費	50,000	50,000	50,000	0	短大・保専同窓会事務局運営費
修繕費	0	525,000	525,000	0	記念碑補修工事費
雑費	50,000	20,000	20,000	0	慶弔見舞金等
本部周年事業・定期総会積立	0	0	0	0	
予備費	500,000	0	0	0	
積立金	0	0	0	0	
支出合計	3,910,000	1,442,251	1,393,522	48,729	
繰越金	1,453,556	4,051,253	4,099,982	▲48,729	
総合計	5,363,556	5,493,504	5,493,504	0	

科目	平成26年3月31日現在金額
現金	3,903
普通預金	1,441,724
未払金	3,179,355
定期預金	525,000
合計	4,099,982



# 立正大学郵政会

会長●市川幹  
創立●昭和34年(1959)  
登録会員数●5,000人  
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16  
電話●03(3493)6673

平成26年度

## 立正大学郵政会 6月21日(土) 地方代表者会議・総会開催

立正大学郵政会は、平成25年4月1日より活動を再開し、今年度の地方代表者会議と総会を6月21日(土)に品川キャンパスにて開催いたしました。

●懇親会では大学より古河良皓理事長・高橋副学長先生、郵政グループから全国郵便局長会二村専務理事・會澤日本郵便東京支社郵便局本部長にご出席を賜り、和やかに懇親を深めました。



平成26年度  
総会が開催される

三期生 近畿地区 小出信篤  
立正大学郵政会は、主に郵政関係の子弟を対象に将来的に、立正大学と旧郵政省の協力により昭和34年に創設されました。

創設当時には、会員数千名を超える規模まで発展し、同じ環境に育った者同士が親交を深め、谷山丘の学び舎で学び、今日までの卒業生は郵政グループの幹部や郵便局長として全国各地で活躍しています。

平成20年には創立50周年を迎え、大学からは、理事長先生・学長先生・副学長先生、そして郵政グループからは、グループ本社や全国郵便局長会幹部等多くの方々にご臨席いただき、全国各地から多くの卒業生も出席し、式典が盛大に挙行され、学生時代に思いを馳せ旧交を温めたのが昨日のように思い出されます。

翌年には大学に校友会が発足し郵政会も参加しましたが、発足時のような活動もままならない状況が続くなか、学生数も大幅に減少していました。校友会の構成メンバーとして郵政会の果たす役割を認識し、日々活動されている市川会長に感謝しつつ、OBとして協力を惜しまない思いを持っていただく、昨年6月28日に新たなスタートを切った郵政会として初めての役員会、地方代表者会、総会が品川キャンパスで開催され、事業計画・予算等が話し合われ、これからの郵政事業の動向を見守りつつ、校友会と連携を深めながら、将来に向けての人材育成に力を注ぎ、推薦入学・就職支援と、8学部・15学科、学生数千名を超える立正大学の一層の隆盛に向けて、郵政会組織の強化を図っていくことが決定されました。

去る6月21日には、39名の会員の出席を得て、今年度の役員会、地方代表者会、総会が品川キャンパスで開催されました。市川会長から挨拶を兼ねて1年の活動報告があり、その後、星副会長などから事業報告・会計報告が行われ異議なく承認、今年度の事業計画(案)・予算(案)について承認されました。その後、各地方の現状報告も行われましたが、地方の組織体制が確立

されていないところもあり、卒業生の把握に苦労している意見も多くありました。中央においても、今後共地方が活動しやすい様把握に努める旨の話がありました。地方でも交流のあるOBを通じ、情報収集に努めることを申し合わせました。

### 平成26年度 地方代表者会議・総会



地方代表者会議・総会風景



懇親会風景

# 立正大学橘会

会長●出口幸祥 創立●昭和39年(1964)  
会員数●約10,000人  
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16  
電話●03(3493)6673

「立正大学(大学院会)在校生のご父母もしくは保証人」の皆様を会員とする団体です。

## 平成26年度 保護者懇談会を開催

今年度も郡山会場より保護者懇談会が始まりました。社会情勢の変化が激しい中、学生のおかれている環境は厳しいものとなっております。その中で先生方より直接学修や就職についてお話が何え、保護者の方向士の情報交換の出来るのがこの懇談会です。今回は、郡山・熊谷・静岡・千葉の開催報告と保護者の方より寄せられた声を掲載いたします。

### 郡山会場

日時：平成26年6月1日(日)  
会場：郡山ビューホテル  
参加数：41人  
保護者懇談会に参加して



徳正 健(山形県)  
昨年の地元山形に引き続き、今回は郡山会場に参加させていただきます。

最初に立正大学のルーツである飯高檀林に関する講演がありました。立正大学についての知識はホームページやパンフレットの情報が全てでしたが、講演を拝聴しそのルーツの深さに驚

き、さらにそれらをしっかりと受け継ぎ未来へ進化させ続ける学校運営の姿勢に大変感銘を受けました。飯高檀林では36年をかけてすべての過程を学んだそうですが、その一部でも何かチャレンジしたいと思いました。

入学から丸2年が過ぎ、親元を離れた自由な一人暮らし、キャンパスでの貴重な学び、サークル活動やアルバイトの充実した日々を過ごしている事と思いますが今年度は3年生、いよいよ就職活動が始まります。今回参加した一番の目的は「父母の為の就職講座」と個人面接です。自分の世代、特に地方に於いては大学を卒業することで就職が約束されるような緩い時代でしたが、現代は大学進学が普通になり停滞した経済状況の中で過酷な競争を強いられ就職内定がもらえない学生は故意に留年するなどといったことがメディアで話題になる度に非常に不安な気持ちになっていました。今回具体的なお話をうかがうことで最新の就職事情を知り過剰な不安感を解消することができました。大学の充実した就職支援体制に頼もしさを感じました。また、息子の履修状況や学習態度について担当の先生のコメントをいただき新しい一面を知ることができました。

毎回、沢山のものを得られる素晴らしい保護者懇談会を開催していただき本当にありがとうございます。特に地方開催は今後も継続していただければ幸いです。

### 保護者懇談会に参加して



渡辺一利(栃木県)  
6月1日に郡山市で行われた保護者懇談会に参加させて頂きました。

昨年の宇都宮市に続き2回目の参加になります。今回の仏教学部長の寺尾英智先生の講演も興味深く「檀林」という言葉を始めて知りました。恥ずかし

い話ですが50年以上生きてきては宗教宗派に檀林という学校が存在していたということ自体知りませんでした。去年の経済学の講演の企業の寿命は30年という話と同様、晴天の霹靂という感じでした。またキャリアサポートセンター部長下垣伸吉先生の「父母のための就職講座」はデータをふんだんに示して丁寧に説明して頂きました。そしてキャリアサポートセンターに気軽に足を運ぶように言って下さいとの言葉をさっそく心に伝えました。卒の返事は「あ、そう。」でした。正直、気が抜けました。自分は理系人間で資格を取得してその資格を仕事に活かして生活してきました。講義は4年間毎日の様に有りました。しかし、文系の講義は入力力の様な気がして心配でした。それを懇親会席上、石松学生担当部長に聞いてみました。石松氏の答えは「大丈夫」とのことでした。個人面接でもそれを聞きました。文系の履修はこんなもんです。それに単位取得状況に問題はありせんとのことでした。親としては空いた時間を有意義に過ごすことを願うだけです。来年の保護者懇親会にも参加したいと思えます。ただの親馬鹿かも知れませんが心配なものです。ですのでこの様な機会によって勉強をはじめ大学生活のことを、知ることが出来、安心しております。最後にこの様な会を設けて頂き感謝申し上げます。

### 熊谷会場

日時：平成26年6月15日(日)  
会場：熊谷キャンパス  
参加数：166人  
保護者懇談会に参加して

保護者懇談会開催直前まで梅雨の長雨が続き、参加者が減るのではと心配していましたが、当日はそんな心配を

吹き飛ばすくらいの晴天となり出席させていただきました。

受付では、野球部員の皆さんの「元気な一声」で始まり、今年も保護者懇談会に来たかと思いつく受付けを済ませ会場に入ると、かなりの方が着席されておりました。程なく全大会が開催され挨拶及び「父母のための就職講座」を非常勤講師岡崎洋先生のお話を聴く機会を得ました。講演の中では、今年の求人数2314社を数え、前年同期に比較すると学生の売り手市場とのこと。

卒業後の就職率も学校全体で90%以上の話しであった。心配する点として国と経済連の就職解禁月が来年から3ヶ月延びるとの報告。就活時期が短期間になるので学業と就活をどのように両立するかが、課題となりキャリアサポーターセンターや特別講座などの情報を早めにゲットし自分にあった就活を行ってほしいと注意してほしいとの事。

最後に学部説明会が清水海隆社会福祉学部長から聴く機会が得られた。その中で気になることがありました。留年率が昇がっている。5%であったものが、13%になっている原因として単位を取れていない、大学に顔を出さない。入学時点で本人の希望する壇学であったかどうかとの事でした。

大学は成績や授業の出席状況などによって把握できるが、個人や「プライベート部分」までは管理できないとの説明がありました。そこで重要となるのが、子どもと父母との関係との事。子ども自身が問題をかかえれば少なからず、どこかの時点でSOSを出して適切な助言につなげられるかと言ったことになりませぬ。

大学では、スクールカウンセラー、学部職員教師がスクラムを組み、一人ひとりの学生に社会生活できる人間の育成を願っていると力強い言葉をいただきました。

家族は、子どもに対し声かけや関

係作りが大切だと思つたことです。最後になりましたが、これから子ども達によりアドバイスをお願いいたします。本日は保護者懇談会を設けていただきありがとうございます。

保護者懇談会に参加して

宇佐美 正博(山梨県)



保護者懇談会は、昨年に続き2回目の参加になりました。昨年は、大学の様子が知り

たいことや、子どもが履修科目を選択し勉強することに対して「大丈夫なのか」といった不安があり、本年は、今後の進路のヒントなどがあればと思い申し込みをしました。また、日頃離れている子どもの様子を見る機会や自然環境のすばらしい熊谷キャンパスを訪れ見学することも楽しみのひとつでした。

当日は、大学教職員の先生方からの、大学の現況等の説明や、「父母のための就職講座」を拝聴しました。2016年春からの就職活動が大きく変わる等々の就職動向や、就職活動については、自己分析への支援や企業職種研究における親のサポートの必要性など興味深いお話が数多くありました。私たちが就職した時代とはまったく変わった環境であることを改めて知ることができ、親としてどう向き合えばいいのか少しは、理解できたのではないかと思います。

また社会福祉士等の資格取得については、3割くらいしか希望していないといった学生の意識の状況と取得の重要性などをお話いただきました。

日頃、立正大学の保護者同士で交流する機会が無く情報を得ることもできませんが、昼食懇親会は、同じ学部の保護者の方々と懇談し普段疑問に思っていたことなどを相談することができ有意義な時間が過ごせました。

個人面接は、短時間ではありませんが、子どもの学習の様子などをお話いただき安心した面もあります。

来年は、3年生になる年ですので再度参加させていただき、進路などについて、ご相談できればと思っています。

最後に、このような、機会を設けていただきました教職員、橋会の役員の皆様にご挨拶申し上げます。

静岡会場

日時：平成26年6月22日(日)

会場：静岡グランドホテル中島屋

参加数：37人

保護者懇談会に参加して

滝浪 伸太郎(静岡県)



6月22日、静岡市において開催された保護者懇談会に参加いたしました。

はじめに大学側の配慮にお礼を述べたく思います。と申しますのも、自分が学生の頃、当然親では無いのでわかり兼ねますが、自分達子ども達の為にこうしてオープンキャンパスの様に親とつながり自分達に情報を共有する機会を与えて下さった事へのお礼です。自分たちの親がこうだった機会に参加したかったか否かは、他界した今では確認するすべもありませんが、いずれにしても、有り難く思います。また、ほんの束の間ですが、学生時代に戻った様な気になりました。舟橋法学部長の講演を聞かせて頂いた為です。その中で奉仕は、頑張った人の足りない所を手助けすると言ったお話が有り、まさに目からうろこでした。自分は人の成長

は、情報の共有にあると信念を持っておりますので会社やその他で集る機会には、得た知識を述べる様に心がけております。その際には必ず教えて頂いた方の名前等を必ず伝えるようにする

のがコツかと、とにかく社会へ出てしまつと、メディアや本、最近ではインターネットで知識を拾いますが、面と向かって大学の先生から話しかける機会が新鮮でした。それから軽食懇親会に一部の保護者に早速伝えました。やはりどの親も子供の事は心配なはずですので、とにかく家内と有り難いなと帰りの車中で最初に出た言葉でした。都合がつけば次回もまた参加したく思いました。感謝の言葉にてご挨拶に代えさせていただきます。

懇談会に参加して

永田 誠・富美代(愛知県)

立正大学で迎える3度目の春も過ぎて、いよいよ「就活」を迎える学年になり、大事な時期ですので、夫婦で参加させていただきました。

橋会副会長・佐々木様のご挨拶をいただき、続いて法学部長・舟橋様より、学校の様子を詳しくご説明いただきました。また、専門分野のお話もしていただきましたが、久しぶりに授業を受けているようで、大変興味深く、楽しく聞かせていただきました。

次はキャリアサポーターセンターの草川課長より、現在の就活状況をお聞きしました。求人時期は遅くなっても、現実的には従来とあまり変わらな



等、やはり直接お話を伺って良かったと思える内容でした。関東の大学の中では早期にキャリア支援の機関を立ち上げられたことで、豊富なノウハウで学生を支えていただけることを大変頼もしく思いました。

その後はおいしいケーキ等いただきましたが、懇親会(昼食)をもっと軽くすれば良かったと後悔...。先生方との懇談は勿論ですが、普段お目にかかることのできない保護者の方たちと、井戸端会議のように楽しくお話を

きたのはとても良かったと思います。

その後は個人面接をしていただきました。

この個人面接は、普段全く音沙汰なしの息子を持つ親にとつては大変ありがたく、今回は就活を中心にいろいろお聞きすることができました。そのお話を受けて、ガイダンス等、必ず出席するようにとメールした次第です。

今回で2度目の参加ですが、やはり参加させていただいて良かったと思っております。

最後になりましたが、良い機会を作っていただき、本当にありがとうございました。また、大変ご苦勞様でした。

千葉会場

日時：平成26年7月6日(日)

会場：ホテルニューオータニ幕張

参加数：109人

保護者懇談会に参加して

酒井 恵一(千葉県)



7月6日に千葉のホテルニューオータニで開催された保護者懇談会に夫婦で参加させていただきました。

我が家には大学生が2人いるため「保護者懇談会」での大体的流れを想像してました。つまり長女の大学でのそれと同じようなものだと漠然と考えていました。

ところが、大学と保護者をつなぐPTAが主体で開催されるという点では同じものの、今回立正大学の懇談会に初めて参加して驚いたことがありました。

現況報告に続きキャリアサポーターから就職に関する様々な説明。これについてはどの大学でも似たような内容になりますね。

その後地球環境科学部長の松井秀郎

先生から「地球情報を活かした生涯教育としての地理・地図学習」と題した講演がありました。

震災での教訓として各地方自治体で作成しているハザードマップですが、その具体的なポイントを分かりやすく説明していただいたこと。

さらに、日本各地での地図を用いた学習参考事例など、学生でなくとも興味深い内容でもと分かりやすく勉強になりました。

その後休憩をはさみ個人面接となりました。

実は懇談会の受付をした際に若干面喰っていました。個人面接表を渡されて既に受付番号も決まっているからです。

てつきり個別での相談事は希望者のみ行っているものと思っていました。懇談会の間「何を相談しよう？」と思いついてしまいましたがそんな心配は不要でした。

面接を担当して下さった先生の手元には娘のサークル、委員会などの活動状況に始まり普段の学習に対する意欲などについても細かい記録がびっしりと書き込まれた調査票がありました。

普段の生活の中になかなか親子で将来に対する話をすることはありません。大学で単位履修するにあたり「自分は何をやりたいのか?」「自分に必要な知識・資格は何か?」を自分なりに考えた内容が調査票に反映されているようにです。

辛い娘は1回生なのでこれから就職に向けてどのような学習をすればいいのか、大学からのアドバイスが的確に得られると確信しました。自宅通学だけでなく下宿している学生の父母にとつてもこのようなフィードバックをしていただけることは大きな安心感につながると思っています。

今回保護者懇談会に初めて参加させていただきました。是非来年度も参加してみたいと思えました。



## 校友の広場 NEWS&TOPICS

### イベント情報

#### ●支部同窓会開催案内

##### 【新潟県】

◆支部長：水澤克夫氏 (S42 経済卒)

◆9月27日(土) 新潟東急イン

◆総会 事務局長：吉田存祐氏

☎ 0257(21) 6197

##### 【愛知県】

◆支部長：澤木利氏 (S50 経済卒)

◆11月9日(日) 名古屋市

◆総会 事務局長：高木茂樹氏

☎ 0564(47) 2320

##### 【長野県】

◆支部長：中島正昭氏 (S39 文史卒)

◆11月22日(土) 長野県飯田市

◆総会 事務局長：中澤哲也氏

☎ 026(299) 2204

#### ●学部同窓会開催案内

【心理学部】平成26年度心理学部同窓会総会・同窓会・進路ガイダンス・心理カフェ

◆会長：小沢勇二氏 (H19 心理卒)

◆9月27日(土) 立正大学品川校舎

☎ 立正大学心理学部同窓会事務局：  
psycho.alu@gmail.com

◆詳細や他の支部・学部同窓会行事は、決定次第校友会・大学同窓会ホームページと校友会報でご案内いたします。

#### ●立正大学同窓会第2回代議員会開催のご案内

◆平成26年度第2回代議員会を下記日程で開催を予定しております。

◆11月2日(日) 11時～12時(予定) 立正大学大崎キャンパス第7会議室(1号館4階)

◆詳細のご案内は代議員の方へ別途郵送致します。

(2014年8月31日現在)

### 開催レポート

#### ●同窓会支部総会開催報告

##### 【千葉県】

◆支部長：二宮将泰氏 (S31 文史卒)

◆6月28日(土) 大学同窓会定期総会参加バスの車中にて開催

##### 【岐阜県】

◆支部長：森卿行氏 (S38 経済卒)

◆7月2日(土) 岐阜市：ワシントンホテルプラザ 銀座八丁

◆講演会：「伊藤博文、暗殺事件とその犯人、安重根について」森澤久雄氏 (S41 経済卒)

##### 【奈良県】

◆支部長：大島鳳淳氏 (S38 仏宗卒)

◆7月5日(土) 奈良市：ホテル日航奈良

◆定期総会

##### 【栃木県】

◆支部長：大川清孝氏 (S42 仏宗卒)

◆7月27日(日) 宇都宮市：宇都宮東武ホテルグランド

◆講演会：「マインドコントロールに脅かされる現代社会」  
立正大学心理学部教授 西田公昭氏



##### 【北海道】

◆支部長：釋英昭氏 (S42 仏宗卒)

◆8月23日(土) 札幌市：センチュリーロイヤルホテル

◆講演会：三遊亭神楽氏 (H4 年法学卒)

##### 【青森県】

◆支部長：大南博康氏 (S49 経済卒)

◆8月23日(土) 八戸市：八戸パークホテル

◆定期総会

##### 【熊本県】

◆支部長：山中進氏 (S47 博地卒)

◆8月23日(土) 熊本市：ホテルニューオータニ熊本

◆講演会：「江戸庶民の食と暮らしの再発見『もったいない』が凝縮していた『エコの街 江戸』」立正大学名誉教授 大塚昌利氏

##### 【香川県】

◆支部長：大井満明氏 (S44 文国卒)

◆8月24日(日) 善通寺市：旧善通寺借行社

◆講演会：「善通寺市の近代化の歴史と旧善通寺借行社保存整備事業」笹川龍一氏



##### 【山形県】

◆支部長：阿部考伸氏 (S46 文地卒)

◆9月6日(土) 寒河江市：ホテルシンフォニー

◆講演会：「己を生かす～生かされている私達の命～」矢吹海慶氏 (S29 短大・宗教卒)

##### 【長崎県】

◆支部長：峯 順通氏 (S47 経営卒)

◆9月6日(土) 長崎市：サンプリエール

◆講演会：「料亭青柳」番頭役 長崎よもやま話 山口広助氏

◆定期総会

##### 【富山県】

◆支部長：山本充彦氏 (S51 仏宗卒)

◆9月7日(日) 富山市：ホテルグランテラス富山

◆総会・懇親会

#### ●学部同窓会総会開催報告

##### 【社会福祉学部】

◆会長：黒米聖氏 (H18 社福人福卒)

◆6月15日(日)、7月26日(土) 熊谷キャンパス 1202 教室

◆同窓会主催保育研究会(卒業生・在校生交流会)

### BOOK & WORK 卒業生の書籍などの紹介



『大学アドミニストレーターの挑戦  
—立正大学に懸けた男の軌跡—』

北尾義昭 (文学部社会学科卒業)

東洋書店  
定価 1,800 円+税  
お問合せ ☎ 03(3269) 2961

##### 【北尾義昭氏紹介】

昭和10年鳥取県で生まれる。

立正大学文学部社会学科を卒業と同時に立正大学に奉職。以後、学校法人・会計課長・経理部長・総務部長、法人事務局長を経て、学校法人立正大学学園常任理事、社会福祉法人立正橋福祉会理事、理事長歴任。理事長退任後、同上法人理事、評議員現在に至る。

千葉県香取市安興寺住職現在に至る。

天正8(1590)年の飯高壇林を淵源とし、大正13(1924)年の大学令による旧制大学としてスタートした立正大学。今や総合大学として進展しているが、本著はその転換期にあった一時代の歴史の証言・提示としての著述である。

戦火によって大崎キャンパス(現：品川キャンパス)のほとんどを消失し、戦後の長く続いた財政的困窮の中で学生数も低迷。学内の土気も下がり、借財のみが膨らむ一方で先行きも見えない状況の下、経理部の最前線で、そして学園の中枢で“アドミニストレーター”(管理・運営者)として苦難と発展の時代をひたすら駆け、本学の総合大学としての礎を築き上げた著者による渾身の回想録。

自ら携わった熊谷キャンパス取得から、学園紛争、財政再建、海外研修、大崎キャンパス再開、開校120周年記念式典、立正たちばなホーム設立や第16代学長石橋湛山先生、マーガレット・サッチャー前英国首相、ダライ・ラマ14世との貴重なエピソードなど、立正人として知っておくべき貴重な歴史の数々を収録した一冊です。



『つれづれ帖 第二集  
—立正大学を詠う—』

西岡 翠 (文学部史学科卒業)  
(本名：西岡興子氏)

北溟社  
定価 3,000 円+税  
お問合せ ☎ 0800(805) 7221  
(10:00～18:00 土日祝除く)

##### 【西岡翠氏紹介】

昭和21年撫順(中国)生まれ。俳号翠。「天為」同人。

立正大学文学部史学科を卒業後、府中市立図書館臨時職員、三井金属鉱業株式会社修史室勤務を経て、立正大学図書館へ勤務し、平成23年3月に定年退職されました。昭和47年俳句結社「夏草」に入会し、俳句作りを始め、立正大学学園新聞への投句がきっかけとなり、キャンパスを題材にした俳句を作られ、今回第二集が出版されました。横山幸永名誉教授序文。

平成15年7月に第一集となる「つれづれ帖」が同社より出版されています。

### 教職員訃報

【平成26年6月～平成26年8月】

付属中学・高等学校元校長

杵 渕 進 氏 (平成26年8月24日 逝去)

名誉教授 春日正三氏 (平成26年8月28日 逝去)

謹んで哀悼の意を表します

## INFORMATION

### 2014年度校友会費B (卒業生・現元教職員等会費)のご案内

昨年度は校友会費B(3,000円)に約1,785件・535万円のご協力を賜りました。皆様のご協力に深く御礼申し上げます。

ご協力頂きました会費は校友会奨学金、入学記念品、卒業記念品、課外活動助成金等の在校生支援事業および卒業生交流会費用や会報等発送に関する校友会運営費に充当させて頂きます。

専用振込用紙にてゆうちょ銀行よりお振込



熊谷キャンパス アカデミックキューブ

#### 立正大学生涯メールのご案内

立正大学では、卒業生・修了生が、同窓生同士の交流はもちろんのこと、本学との交流や情報交換を図り、無償、永年利用のメールサービスを来春4月より開始いたします。詳細につきましては次号にて改めてご案内申し上げます。

### 校友会会員情報について

ご登録を頂いております、お名前・ご住所・電話番号・勤務先等にご変更および訂正がございましたら下記までご連絡下さい。

#### 変更届の内容

- ◆氏名 ◆ご住所 ◆電話番号
- ◆メールアドレス ◆勤務先または職業
- ◆校友会会員番号(校友会報・学園新聞宛名ラベルの番号)

#### お問い合わせ・お届け先

立正大学学長室校友課  
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16  
☎ 03(3493) 6673 FAX: 03(3493) 9068  
Email: alu@ris.ac.jp

専用用紙は立正大学校友会ホームページ  
(<http://alumni.rissho.jp/>) からダウンロードできます。

#### お知らせください

◆卒業生の活動情報やクラブ・サークルOB/OG会開催、卒業生のお店紹介等卒業生の活動に関する情報がございましたら上記お問い合わせまでご連絡ください。